

農薬を正しく使って 安全安心なおばこ米を生産しましょう

農薬使用の際は周囲に気を配り、飛散に注意しましょう。

農薬を正しく使いましょう

1. ラベルをよく読み、よく理解してから使用しましょう。
2. 散布の時は飛散（ドリフト）に注意しましょう。
3. 散布後は、器具をよく洗いましょう。
4. 農薬使用時には必ず記帳しましょう。

ラベルの絵表示に従って保護具を着用しましょう

- 農薬用マスク
- 手袋
- メガネ
- 防除衣



身体に異常を感じたらすぐに診断を受けましょう

医師には下記の点をお伝え下さい

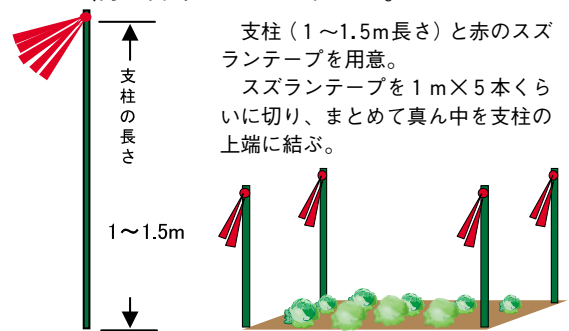
1. 異常時の状況→体のどこが、どんな具合に、いつから
2. 使用した農薬は→名称、摂取量、
3. 農薬の現物またはラベルを持って行きましょう

周辺に気を配り散布しましょう

1. 風向きに注意し、近くの住宅や隣接作物に飛散しないよう注意しましょう。
2. 近所の人とよく連絡をとり合い、事前に散布の日程・場所を知らせましょう。

露地野菜生産（販売）者へのお願い

- ◎ 販売向け圃場であることを表示しましょう
- 1. 生産物の収穫10日前になりましたら圃場の四隅に目印を立てて下さい。



- 2. 収穫終了後は目印を速やかに撤去しましょう。

水稻栽培者へのお願い

- ◎ 露地野菜生産（販売）者が圃場に目印を立てていましたら、以下の点についてご留意下さい。

近接する露地野菜生産者と農薬散布時期、使用農薬、収穫時期などについて情報交換し、農薬散布時期には次の点に注意してください

- ① 風のない時期を選んで散布すること
- ② 散布の位置と方向に注意すること
- ③ 適切なノズル、圧力で散布すること
- ④ 粉剤は特に飛散（ドリフト）しやすいので注意しましょう。

DL粉剤は風速1メートル以下で使用しましょう

散布液の残り、器具の洗浄液は適正に処理しましょう

1. 使用量に合わせて散布液を調整するのが基本です。
2. 散布液の残りがでないように、均一、適正量散布を心がけ、防除圃場で使い切りましょう。
3. 器具の洗浄液は河川等水系には流さず、周辺への流亡にも注意しましょう。



空容器は適正に処理しましょう

1. 野焼きは禁止です。
2. プラボトルなどの容器内に付着した農薬が残らないように、3回以上洗浄しましょう。
3. 地域の共同回収、処分システムを活用しましょう。
4. 許可された産業廃棄物業者などに委託しましょう。

廃（不要）農薬は適正に処理しましょう

1. 容器内に農薬を残したまま捨てないでください。
2. 不要な農薬が出た場合は産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。
3. 基本は必要量の購入です。



農業技術情報

JA秋田おばこ

No. 4

平成22年6月発行



発行／秋田おばこ農業協同組合 監修／仙北地域振興局農林部普及指導課
仙北農業共済組合

「おいしい」が稔る中盤管理

～生育は数日の遅れ気味 今後も気温に合わせた水管理を～

東北地方の天候予想 平成22年6月18日 仙台管区气象台発表

6月19日から7月18日までの天候見通し

【予想される天候】

東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1ヶ月の気温は高い確率が50%です。

【週別の気温経過予想】

週別の気温は、1週目は高い確率が80%、2週目は高い確率が50%です。

気温 (%)

低い (20%)	平年並 (30%)	高い (50%)
----------	-----------	----------

降水量 (%)

低い (30%)	平年並 (40%)	高い (30%)
----------	-----------	----------

日照時間 (%)

低い (30%)	平年並 (40%)	高い (30%)
----------	-----------	----------

＜気温経過の各階級の確率 (%)＞

6月19日(土)～6月25日(金)

低い (10%)	平年並 (10%)	高い (80%)
----------	-----------	----------

6月26日(土)～7月2日(金)

低い (20%)	平年並 (30%)	高い (50%)
----------	-----------	----------

7月3日(土)～7月16日(金)

低い (30%)	平年並 (40%)	高い (30%)
----------	-----------	----------

水稻定点調査結果 6月10日現在 (仙北地域振興局農林部普及指導課)

6月10日の生育調査では、葉数が5.7葉で平年よりも0.3葉少なく、2～3日ほど生育が遅れています。

これは、低温等により苗の生育が遅れたことと、全体的に苗が軟弱傾向だったこと、さらに田植え後の低温により活着の遅れた圃場が多かったためです。

今後の管理について

今後も低温が予想されているため、水温・地温の上昇に努め生育促進を図りましょう。また、カナや表層剥離が多くなると水温、地温が低下し生育が抑制されますので、モゲトン粒剤散布等の対策を行って下さい。

	6月10日		
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)
本年	24.0	152.0	5.7
平年	25.4	163.0	6.0
前年	25.6	112.0	5.9
平年比	94%	93%	-0.3
前年比	94%	135%	-0.2

中干し開始の目安

目標茎数を確保したら直ちに中干しを実施しましょう。

- ・ 目標穂数と同じ茎数を確保した時点で、中干しまたは深水管理を行います。
- ・ 各品種の有効茎決定期の目標値及び幼形期・減分期は下表のとおりです。

	あきたこまち	めんこいな	ゆめおぼこ
有効茎決定期	6月25日	6月28日	6月28日
目標茎数(本/m ²)	415	450	410
目標草丈 (cm)	38	40	38
幼穂形成期	7月15日	7月18日	7月18日
減数分裂期	7月25日	7月28日	7月28日

- ※ 生育が遅れている場合は目標茎数まで分けつ促進を図ります。
- ※ 気象条件や生育状況により中干しまたは深水の時期や強さは異なりますので、確認しながら行って下さい。

【中干しを行う場合の留意事項】

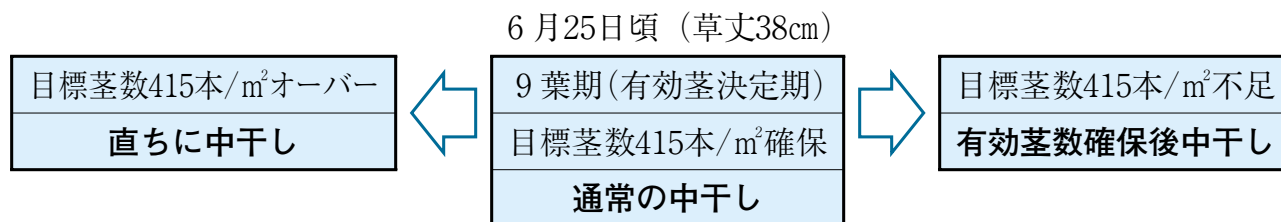
- ・ 田面の均平が悪く落水しにくい場合や、排水不良田では中干しに先立って溝掘りを行います。
- ・ 中干し終了後は間断かん水とし、土壌を酸化的条件に保ち根の伸長を促進させます。
- ・ 中干しの実施期間は7～10日程度とし、幼穂形成期前には終了します。
- ・ 中干しの程度は、田面に軽く亀裂が入り足跡が付く程度とします。強い中干しは亀裂を大きくし、根を切らすなど生育に影響を及ぼします。特に黒ボク土では注意が必要です。

【深水管理を行う場合の留意事項】

- ・ 漏水の原因となる畦畔の崩壊や穴などがある場合は修復しましょう。
- ・ 深水管理期間中は弱小茎の発生を抑えるため、15cmの深水を保ちましょう。
- ・ 深水管理終了後は、慣行栽培と同様の中干しを行います。
- ・ 天候不順などにより、目標茎数（20本から23本/株）を確保できない場合は、深水によるマイナス効果が大きく茎数不足となるので、通常の水管理を実施します。

中干しの診断方法

- ・ イネの茎数や草丈をよく観察し、中干しを行いましょう。(あきたこまちの場合)



取りこぼした雑草には中期剤

薬剤名	使用量(10aあたり)	散布時期など
クリンチャー粒剤	1～1.5kg	移植後7～35日(ノビエ4～5葉)ヒエ専用
バサグラン粒剤	3kg	落水散布 広葉雑草のみ
マメットSM1 _キ 粒剤	1kg	移植後15～30日(ノビエ3.5葉期)
ワイドアタックSC	薬液:100ml 100 _ト リ/10a	1,000倍 移植後25～40日(ノビエ5葉期まで)

施肥管理

こまめにイネを観て、施肥量をコントロールしましょう。

【全層基肥栽培の場合の中間追肥】

- ・ 移植後30日になると基肥で速効性肥料を使用した圃場では、葉色が淡くムラになり、葉身が立ってくる、「肥切れ」が見られるようになります。
- ・ 穂肥まで持たない場合は、基肥量に応じてチッソ成分量で1.0～1.5kg/10aを追肥します。この時期は、土壌チッソの発現もありますので、追肥量には十分注意して下さい。

【側条施肥栽培のつなぎ肥】

- ・ 側条施肥で緩効性肥料や全層と組み合わせた場合は、原則としてつなぎ肥は不要ですが、天候や生育状況によっては必要となる場合もあります。
- ・ ペースト肥料(2段施肥を除く)や速効性肥料を使用した場合は、8～9葉期にチッソ成分で1.0～1.5kg/10aを追肥します。

稲づくり肥料の施用

肥料名	施肥量(kg/10a)	施用時期	施用効果
P K 40 号	20～40kg	6月下旬～ 7月初旬	① 倒伏抵抗性が高まる ② 根の活力向上 ③ 有効茎歩合の向上 ④ 登熟歩合の向上
珪酸カリ			
おぼこの大地	40kg		
粒状みつかね			

追肥肥料の施用

肥料名	施肥量(kg/10a)	施用時期	備考
おぼころマンみのり	7～13kg	出穂前15日※	硫安系 15-4-15 有機20%入り
おぼころマンめぐみ			塩安系 15-4-15 有機20%入り

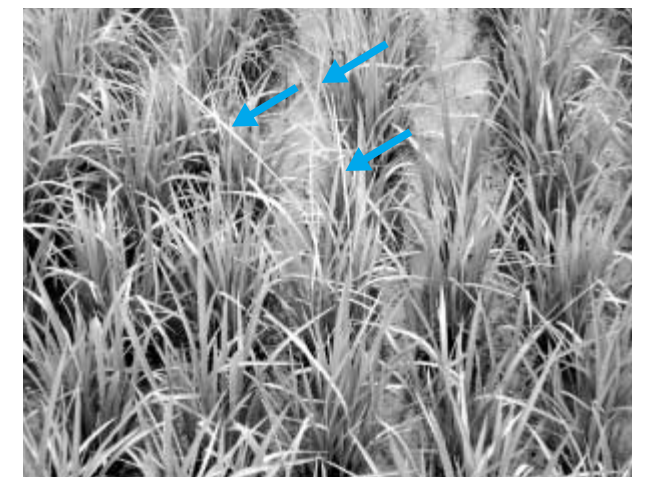
- ※ 穂肥は減数分裂期(出穂前15日頃)にN 2 kg/10aを基本とし、葉色が濃い場合には幼穂形成期には追肥は行わない。幼穂形成期と減数分裂期の2回追肥合わせてN 3 kg/10a以内とする。
- ※ 減数分裂期以降は、玄米中のタンパク質含量を高めて食味値を低下させるので避けること。

ばか苗病株をみつけたら

圃場内ではか苗病株を見つけしだい、土中への埋没処分をしましょう。

ばか苗病は育苗期～本田後期にかけて発生します。罹病苗を本田に移植すると2週間～1ヶ月後には葉梢や節間が異常に伸びて草丈が長くなり、葉は黄緑色で分けつは少なくなります。本病は菌糸の状態で種籾の中に入って種子伝染します。

本県では、今年のばか苗病の発生量が多いと予想されているため、発病株は伝染源となり、7月以降は発見が困難になるので、放置せずに見つけしだい株ごと抜き取り土中に埋め込んで下さい。



本田にて異常に伸長した病株(矢印)